

「市町村の森」制度を中心とした国有林野の活用とPRについて -全国市町村の森サミットをとおして-

東信森林管理署 流域管理調整官 ○飯島 一成
業務第一課管理係長 いで りょうじ 井出 良二

はじめに

近年、国民の森林に対する要請が多様化する中で、自然とふれあうこと、保健休養及び文化・教育的活動の場としての国有林の活用が求められています。

このため、地方公共団体が国有林野を取得して森林公園等の整備を行う事業に「市町村の森」制度があります。この制度に係る全国規模のイベント紹介と、これをとおした国有林野の活用とPRについて報告します。

1 経過

本制度は、平成5年度より国土庁、林野庁、自治省が実施することとなった森林・山村対策の中で、保全すべき森林の公有林化を推進するための事業の一つに自治省の「国土保全特別対策事業（地域環境保全林整備事業）」があります。地方公共団体が森林公園等を整備するための森林を取得する場合、地方財政措置が講じられるもので、本事業を林野庁では「市町村の森」造成推進制度として位置付けています。

中部森林管理局管内の「市町村の森」の造成については、川上村が第一号として平成7年に当署管内の長尾国有林57haが設定され、その後、上田市など5市町村で取得がなされ、約530haが環境の保全を重視しながら地域住民の保健休養・森林レクリエーションなどの森林公園として整備されてきております。



写真-1 川上村金峰ふれあいの森

この「市町村の森」制度を活用し地域振興に活かしている全国の市町村の首長が一堂に会し、連帯と意見や情報の交換を深めるとともに、施設への取組や内容等を図り、他市町村への制度の普及を目的として、平成7年度に北海道置戸町で「第一回全国市町村の森サミット」が開会され、宮城県蔵王町、秋田県太田町、福島県北塩原村と開催してきたところであります。

今回第五回全国「市町村の森」サミットが当署管内の川上村において、平成11年9月30日～10月1日に開催されました。

2 実行結果

サミット開催に当たり、平成11年7月28日に、川上村、川上村村議会、南部佐久森林組合、中部森林管理局・東信森林管理署、林野弘済会長野支部、長野県佐久地方事務所等の関係者により、「市町村の森サミット」は東信地域の林業関係団体等を上げて取り組むこととし、川上村長を会長とした「市町村の森サミット」実行委員会の中で確認しました。

さらに、「サミット」開催までに数回の実行委員会と事務局会議を開催し、時期、規模、内容、招待者等の決定、各林業関係団体へ後援・協賛のお願いの準備など全国規模のイベントの準備は膨大なものとなりました。

今回のサミットは、循環型社会構築のための再生産可能な資源として森林を21世紀に引き継ぐ我々の思いを込めて、テーマ「生命の循環、森に還ろう。」とし、「緑の輝き、カラマツの故郷川上から」を全国に発信することとしました。

サミット開催地である「信州カラマツ発祥の地」を印象付けてもらうために、天然カラマツの枝を利用したネームプレートを作成し、参加者全員に付けて頂くこととしました。

作成は、当署で担当し、材料の採取は現場職員、加工・氏名等の記入は庁内職員が協力して、サミットの成功に向けて全職員が一丸となって取り組むことができました。

第五回全国「市町村の森」サミット開催当日には、全国から参集したサミット参加22自治体の首長を初めとして、県外のオブザーバー5自治体及び県内の関係市町村、後援・協賛団体約300名の参加を得て、実行委員会副会長の中部森林管理局由田計画部長の開会宣言、藤原川上村長の歓迎の挨拶で始まりました。

「全国75市町村の森」を代表として、北海道長沼町、上田市、和歌山県本宮町、福岡県小石原村から、それぞれの「市町村の森」を活用している優良事例の発表がおこなわれました。

何れの市町村からも、当制度の活用は地元振興及び森林とふれあいの場などとして、大きな役割を果たしているとの力強い言葉がありました。

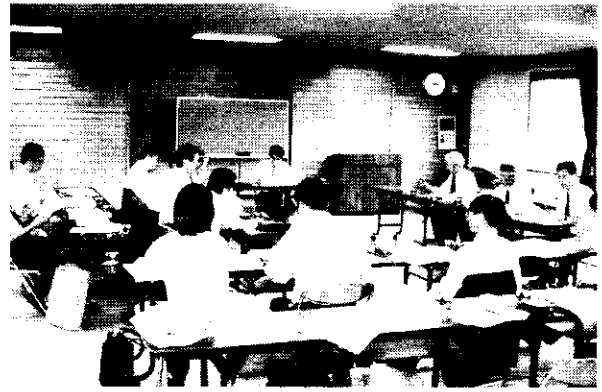


写真-2 サミット実行委員会の開催状況

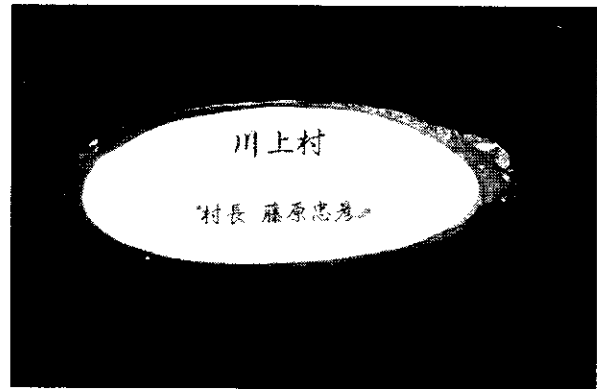


写真-3 天然カラマツのネームプレート



写真-4 サミット開会宣言



写真-5 優良事例の発表

引き続いて討論会、そしてサミット宣言が参加者全員の賛同を受け採択され、藤原川上村長から第六回開催地の和歌山県高野町へサミット旗が伝達されました。

議事終了後、サミット開催会場の庭で参加自治体の首長による「県・市町村の木」の記念植樹と記念碑の除幕式がおこなわれました。

その後、俳優の柳生博氏が生き物地球紀行の取材による森と生き物の係わりや自分の幼いころの思い出などを交えて「森と暮らす。森に学ぶ。」と題した基調講演、柳生博氏を囲み、藤原忠彦村長、久米えみ氏（建築士）、中島初女氏（農業川上村在住）の4氏による「生命の循環・森に環ろう」のテーマで対談がおこなわれました。



写真-6 サミット旗の伝達



写真-7 柳生博氏の基調講演

おわりに

これまでの「市町村の森サミット」では、国有林・開催市町村や「市町村の森」造成自治体が主体で実施してきており、県関係機関や地方自治体を巻き込んだものではありませんでした。

今回の「市町村の森サミット」では、民有林・国有林が一体となって取り組みを行ったことから、国有林野事業における「市町村の森」などの制度を理解してもらうことができ、中部森林管理局管内の川下等の国有林に係わりの薄い市町村の参加も得られました。

以上のことから、保健休養・森林レクリエーションの場など優れた価値を有する国有林野について、地元振興の観点から、森林公園等の公の施設として管理し、その保全・活用を図ることを目的とする「市町村の森」の制度を全国規模でPRでき、併せて、他の国有林野の活用制度を進めて行く上で十分成果があったと考えています。

さらに、当署においても市町村から地域住民が保健休養等の目的で、国有林野の活用を図るための要望は、積極的に応えていき、併せて、サミット等の場をとおして積極的にPRして行かなければならないと考えています。

また、今回の反省点として、「市町村の森」制度を活用している自治体は地方の都市や農山村に多く、大都市等による活用事例がないため、今回の「市町村の森サミット」に参加して頂くことができませんでしたので、今後更に林野庁、局・署を上げて「市町村の森」の活用を積極的にPRして行く必要があると考えています。